

- 問 1) 位相差顕微鏡による生体染色しない生きた細胞では認められるか。2) 塩基性物質は核のこわれたものとお考えか。(佐藤磐根)
- 答 1) 赤血球膜を構成する特殊蛋白と血色素の存在に妨げられて位相差では認められない。2) Feulgen の反応は陰性であるから核とは無関係と考える。
- 問 1) 嗜塩基性構造と嗜銀性構造とは同一と考えるか。2) それらの構造は生体でもそのままの形態で存在すると考えるか。3) 生体でそれらの構造が出現する頻度はどれくらいか。(島倉亨次郎)
- 答 1) 前者は嗜銀性をも示すが、後者は必ずしも嗜塩基性を示さない。2) 然り。3) 前者の出現頻度は動物の種類によつて異なるが恐らく 31% 以下 (正確に計算していない) で、鉛中毒等の病理的要因により増加する。後者は全赤血球に見られる。

馬の汗腺の細胞学的研究 高木 俊蔵・田川 正之 (大阪府大・教育・生)

馬の汗腺はアポクリン汗腺であるが汗量に富み、機能的には人のエクリン汗腺に類似する。細胞内に分泌顆粒は存在せず、ミトコンドリアは糸状で細胞の長軸にそつて見られ、ゴルジ装置は塊状、その位置は特異的で核の側面から頂端にかけて見られる。PAS 陽性物質は腺腔側に豊富であるが、これはグリコーゲンではない。フオスファターゼはアルカリ、酸フオスファターゼ共に陽性でありアルカリの方が顕著で穀皮層附近に検出された。トルイジン青による細胞質塩基性は核周及び細胞質に検出され、ピロニン染色による RNA は細胞核及び核周囲の細胞質によく検出された。馬の汗腺に明瞭な分泌顆粒がなく、分泌物の合成に関係が深いと考えられるゴルジ装置が小さいこと、また RNA は検出されるが顕著でないことは、馬の汗が watery である事実とよく対応する。人のエクリン汗腺のグリコーゲンは長時間の発汗ののちに消失するといわれるが馬ではこの事実は認められない。

問 細胞化学的処理によつて得られた陽性物質と Golgi 装置との関係はどうか。(長谷芳美)

答 Golgi 装置には phosphatase その他の陽性の反応はみられなかった。

綜 合 討 論

問 低温処理をした場合に一方では haploid 細胞が高くなるし、他方では polyploid の細胞が高くなるといふ一見矛盾した現象が現われているがその原因については何かお考えになつておられるか。(吉田俊秀)

答 同一組織内において均一の変化がみられるのではなく、低温処理の結果 $2n$, reduction cell, polyploid cell と混在するのは細胞の調正が各細胞に於て異なるためであると思われる。(谷村裕)

問 1) ブリリアントクレジル青の超生染が長引いた時鍍銀像は得られないか。2) 鍍銀像の得られた血球と polychromatic cell との量的関係はどうか。3) 幼若型の B・C・B 像と鍍銀像との関係はどうか。(長谷芳美)

答 1) 哺乳類の成熟赤血球では染色時間を延ばしても構造は現われない。2) 全赤血球が網状の内部構造を示した。3) 幼若型においては両者は一致すると考える。(品川恭徳)

問 改良された鍍銀法というのはどのようなものか。(高木俊蔵)

答 次の固定液で 2~3 時間固定、水洗後法の如くゼラチン鍍銀法を行つた。

1% オスミツク酸水溶液.....	1 cc
1% クロム酸水溶液.....	7 cc
フオルマリン原液.....	1~1.5 cc
10% 塩化カルシウム水溶液.....	1 cc (品川恭徳)